

(様式1)

環境配慮検討書

生文第 21-4 号
平成21年5月 8日

三重県環境調整システム推進会議 部会長 様

生活・文化部新博物館整備推進室長

三重県環境調整システム推進要綱第4条の規定に基づき提出します。

対象事業の名称	新県立博物館（仮称）建設工事	
連絡先	担当室又は課所名	生活・文化部 新博物館整備推進室

1 事業の計画の名称、目的及び内容

(1)名称	新県立博物館（仮称）建設工事	
(2)目的	開館後半世紀を経過し、老朽化やスペース不足などの問題を抱える現県立博物館に対する新しい博物館開設への県民・利用者の思いを踏まえ、文化振興の視点から「文化と知的探求の拠点」にふさわしい、三重の自然と歴史・文化を学んだり、主体的に活動できる新たな博物館を整備します。	
(3)事業主体	三重県	
(4)計画内容	①計画地の位置 ※位置図を添付すること	津市上浜町6丁目及び一身田上津部田地内 (約3.7ha)
	②建物・施設等の概要 (用途、規模、面積、配置等) ※配置図を添付すること	博物館 3階建 SRC造 一部RC造 S造 延床面積 約12,000㎡ (うち 1期分 約10,000㎡)
	③用水の使用計画	飲料水は上水を利用
	④エネルギーの使用計画	・効果の高い空調・熱源方式により、省エネとCO ₂ 排出量削減を図ります。 ・太陽光発電等の設置により、自然エネルギー利用を図ります。
	⑤雨水、汚水の排水計画	雨水：調整池建設により対応 汚水：浄化槽設置により対応（当面）
	⑥道路・交通計画	津市道 上津部田第1号線、及び、 津市道 津駅・見当山線 に接続
	⑦工期	ア)着工の予定時期 イ)完工及び供用開始の予定時期
(5)関連事業計画	津市道 上津部田第11号線 代替工事（予定）	
(6)その他	該当なし	

2 計画地の社会的条件の現況等

(1)計画地の社会的条件の現況	①交通の現況	近鉄・JR津駅からバスで5分、または徒歩25分。
	②土地利用の現況	山林及び更地。更地は現在県総合文化センター駐車場として利用している。
	③水域利用の現況	ため池が周囲に存在し、下流の水田の灌漑に利用されている。
	④生活関連施設の現況	周辺には、県総合文化センター（図書館、文化会館、生涯学習センターなど）や県立美術館がある。 敷地西側には住宅があり、北東側には一身田上津部地区地区計画の住宅地区がある。
(2)関係法令等による地域の指定・規制状況	①自然環境保全地域等の指定状況	自然環境保全地域（地区）、自然公園地域（区域）、鳥獣保護区の指定状況 指定なし
	②土地利用規制の現況	用途地区：第2種住居地域 地区計画：一身田上津部地区地区計画 B文化地区 広告物：禁止地域

3 計画地の自然的条件の現況等

(1)地形・地質	文献調査	文献名	三重県センター博物館（仮称）建設予定地自然調査報告書	
	現地調査の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無（実施日時 1996年8月）	聴取調査の有無	有・無
	調査結果等	見当山丘陵の東端にあり、地形は谷底幅 50 数mの谷によって東北側と西北側に二分された丘陵地となっている。 地質は、下層の半固結の泥質層と砂層からなる東海層群亀山累層と、丘陵頂部に分布する見当山礫層から形成されている。		
(2)水象	文献調査	文献名		
	現地調査の有無	有・無 <input checked="" type="radio"/> （実施日時）	聴取調査の有無	有・無
	調査結果等 ①河川、湖沼 ②海域			
(3)気象・大気質等	調査の方法	2008年 津地方気象台 気象データ 平成19年度大気環境測定結果、公共用水域水質測定結果		
	調査結果	気温： 平均気温 16.3℃ 最高気温 39.9℃ 降水量： 1703mm/年 最多風向：北西 風速： 平均風速 3.8m/s 最大瞬間風速 26.5m/s 大気質：SO ₂ ：0.004ppm NO ₂ ：0.009ppm SPM：0.025mg/m ³ （観測地点：津市西が丘小学校） 水質：pH7.3～8.1 DO6.4 BOD2.2 SS3.0 （観測地点：志登茂川下流） 騒音： 振動：		
(4)生態系等	文献調査	文献名	三重県センター博物館（仮称）建設予定地自然調査報告書	
	現地調査の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無（実施日時 1996年8月）	聴取調査の有無	有・無
	調査結果等 ①植物 ②動物	植生の概要：現地調査時は、アカマツーヒサカキ群落、コジイーカメモチ群落、アベマキーネザサ群落、メダケ群落、モウソウチク群落などが存在したが、現在ではモウソウチクが広範囲に広がっている。 シダ植物26種、種子植物195種が確認されている。 貴重な植物個体：特になし 貴重な植物群落：特になし 動物相の概要：ほ乳類3種、鳥類38種、は虫類5種、両生類4種、昆虫369種が確認されている。 貴重な動物：特になし ※H21年度に追跡調査を実施		

(5)自然景 観・文化 財等	文献調査	文献名	三重県センター博物館（仮称）建設予定地自然環境報告書、ヲノ坪窯跡発掘調査報告	
	現地調査の有無	有・無（実施日時）	1996年8月 1997年3月	聴取調査の有無 有・無
	調査結果等 ①自然景観	<p>自然景観の概要： 津市上浜町と津市一身田上津部田にまたがる丘陵地であり、中勢地方にみられる里山的環境である。</p> <p>貴重な自然景観： 特になし</p> <p>※H21年度に追跡調査を実施</p>		
	②文化財、史 跡、名勝等	<p>史跡・名勝・天然記念物： なし</p> <p>埋蔵文化財包蔵地： 敷地東側に埋蔵文化財「ヲノ坪遺跡」</p>		
	③野外レクリエー ション他			
(8)その他、 自然災害 等				

4-2 事業計画の検討内容（複数案比較が実施できない場合）

複数案比較が実施できない理由	一身田上津部地区地区計画 B文化地区を敷地として選定済みであり、また敷地南東部の豊かな里山林や地形を生かし、既に更地となっている部分を利用して建設計画を行っているため、当配置計画以外考えられないため。
----------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------

※環境配慮事項ごとに、環境配慮度を◎○-で記入し、その配慮の内容及び配慮度の評価の理由を記入すること。

<p>環境配慮技術指針の配慮目標</p> <p>①循環を基調とした持続的発展が可能な社会の構築</p> <p>②人と自然が共にある環境の保全</p> <p>③やすらぎとうるおいのある快適な環境の創造</p>	<p>環境配慮度</p> <p>◎：十分配慮している。</p> <p>○：配慮している。</p> <p>-：特に配慮する必要がない。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------

技術指針に基づく環境配慮事項	環境配慮度	環境配慮の内容 (一の場合は、無記入でも可)	配慮度の評価の理由
①-1 地球温暖化防止	◎	太陽光など自然エネルギーの利用や断熱性を高めるなど省エネルギー化をすることにより、環境への負荷が少ない施設とするとともに、地球温暖化防止を図ります。	自然エネルギー利用による省エネルギー対策と、CO2削減対策。
①-2 廃棄物対策	◎	既設アスファルトについては撤去後、再資源化施設へ運搬します。 伐採樹木は、チップ利用をめざします。	リサイクル対策
①-3 生活環境の保全	◎	周辺住宅地とは保全林や緑地帯を緩衝帯として、緩やかなつながりを持ちます。	地域への環境面での配慮。
①-4 その他重点事項	◎	太陽光発電、省エネ型照明器具、環境配慮に関する説明パネルの設置など、環境保全意識の向上に寄与する計画とします。	環境教育の導入。
②-1 野生生物等の生育空間の確保	◎	既存の里山林を極力残すとともに、自然の地形を利用することで、野生生物の生育環境を確保します。	既存の自然環境の保存。
②-2 希少な野生生物の保護	-		
②-3 地形、地質等の改変の抑止	◎	既存の里山林や尾根線にかからない配置計画を行い、造成の範囲を最小限に抑えることをめざします。	造成範囲の小規模化。
②-4 その他重点事項	-		
③-1 緑化、周辺景観との調和	◎	駐車場を含めて、外構は積極的な緑化を図るとともに、里山林の緑を保全し、潤いのある景観を構成します。	外構の積極的緑化。
③-2 親水等、ふれあい空間づくり	◎	敷地内の里山林などに屋外散策路や観察広場を設け、だれでもが気軽に防れることができる親しみやすい空間とします。	自然と親しみやすい空間づくり。
③-3 その他重点事項	-		
④上記以外の特記事項	◎	エネルギー消費を抑えるため、外壁面に縦ルーバーや水平庇、屋根面に太陽光発電を設置するなど外装システムにおいても空調負荷の低減を図ります。	空調負荷の低減。

5-2 事業計画案の環境配慮に係る評価

従来の事業等と比較して優れている点	博物館という高機能が求められる施設において、自然エネルギーを積極的に導入するなど、環境負荷の低減を導く省エネルギーシステムを採用している。
今後の課題	特になし
会議での調整を要する事柄	特になし